



2022 年度地域支援アドバイザー研修4回目サマリー

4回目:令和 5 年3月10日(金)14:00~16:00 に開催

参加者:17名

プログラム 別紙参照

- ◆ 第1回、第2回研修の振り返り
- ◆ 第3回研修(体験見学)参加者からの感想
- ◆ 4つのグループに分かれ、グループトーク
- ◆ 第1G サポーター : 浦 幸寛
第2G サポーター : 平原 由香
第3G サポーター : 森本 剛
第4G サポーター : 福田 人志、荻田 哲司

レビュー目次

1. サポーター一言サマリー

浦 幸寛さん

皆さん地域支援アドバイザー研修お疲れさまでした。

今回サポーターとして参加させて頂きましたが、皆さんの「一歩踏み出そう」という熱い思いに私自身が心揺さぶられました。この研修を通して「繋がり」「居場所」という事を誰と考えていくのか、その為には「本人の声」を起点に地域へ発信する事の必要性を強く感じました。今回参加された方々は、研修に参加した事がすでに一歩踏み出しているものだと思います。また、研修を通して知り合った仲間と繋がっていき事が大切ではないかと思います。大きい事をやるより、やれることから少しずつ取り組む事で少しずつ変わっていくものだと思っていてこれからも一緒に頑張っていきましょう！！

皆さん本当にありがとうございました。

<ご案内>

大牟田市では、診断直後からの居場所作りの一環としてミーティングセンター(認知症の人と家族の一体的支援プログラム)を立ち上げています。皆さんいつでもお気軽に遊びに来てください。



ミーティングセンター吉野

- 当事者 5 名/家族 3 名/スタッフ 5 名
- 毎月 1 回開催
- ボーリング・料理・外食 等



ミーティングセンターおおむた

- 当事者 5 名/家族 3 名/スタッフ 5 名
- 毎週 1 回開催
- まち歩き・ハタラク 等



ミーティングセンターてがま

- 当事者 3 名/家族 3 名/スタッフ 7 名
- 毎月 1 回開催
- 山登り・畑作業 等

平原 由香さん

(受講生からの感想、意見)

・今まで、事業所以外の外とのつながりはほとんどなかった。今回、地域支援アドバイザー研修を受講して、自分たちでもできる小さな一歩を踏み出せたらと勇気もてた。

まずは同じ GH 同士の横のつながりを持ちたい。

地域の連絡調整会議に参加したら、GH の暮らしぶりを知りたいとの声が上がった。まだまだ地域の人を知る機会がなくつながりがないことを感じた。今まではこういう場でただ参加するだけだったが、もっと自分たちから声を出していこうと思った。

・世代間交流で3月20日に小学校4年生5年生88名が来る予定になっている。久しぶりの直接交流で、外でお花を植えてもらおうと企画しており、今、子ども達へのメッセージカードを作成中。オンラインではなくリアルで交流ができることが今からとても楽しみだ。

やっぱりオンラインより実際に交流できる方がいい。

・外に出ると人との出会いがありたのしい。散歩でもちょっとしたドライブでも気分転換になる。

(お知らせ)

・さろーんちくし野は、毎週土日ゆったりとひらいています。

参加希望あればお気軽にいつでもどうぞと代表の中村益子さんより

今回の地域支援アドバイザー研修サポーターで、私も皆さんとつながり、いろんな取り組みを知ることができました。外に出かけてふれあいをもてることは入居者さんたちも私たちもたのしいこと。小さな幸せをたくさん作って日々の暮らしを心豊かに過ごしていきたいと思いました。サポーターの機会をいただきありがとうございました。

森本 剛さん

当初は、ツクタベの話をして欲しいとのことで、インテークではその話をさせていただけましたが、グループワークでは、地域と繋がることや、運営推進会議についての工夫話をしました。今回は、そうした新しい取り組みについてもですが、コロナ禍前に出来ていたグループホームや小規模多機能での利用者さんの日常生活リハビリやレクリエーション活動を戻すことへの不安や意気込みを共有することが出来たのは良かったなと思います。

実習生①

コロナ禍で支援や交流に制限があり、今まであたりまえだった支援や交流の場がなくなり苦労されてきたことが分かりました。

グループワークでは、サポーターの方を中心として、これからの地域支援についての気付き、学びの場であったと思います。私自身も実習後も地域交流の場に積極的に参加したいと感じました。

実習生②

今回の研修のお話の中に、散歩をすることで、人との出会いがあり、地域の人とお話をする機会ができるとおっしゃられていて、散歩することの大切さを学びました。散歩をすることで 地域とつながるきっかけになるため、そういったきっかけづくりが地域のコミュニティーづくりで大切であると感じました。

以上になります。今回参加させて頂きありがとうございました

福田 人志さん

今回は、2022 年度地域支援アドバイザー研修会に参加させていただきまして誠にありがとうございました。

第1回目と第4回目に皆様と一緒に気兼ねなく話し合いが出来たことは、私にとりましても貴重な経験となりました。

サポーター役として責任を果たせたのか心配もありましたが、皆様が真摯に耳を傾けてくださったので前向きな可能性のある発見や繋がり方が見えてきた研修会だったと思います。

コロナ禍になり出来ていたことが出来なくなって、当たり前であった人との繋がりもずいぶん制限されてしまい、自由がなくなりストレスが増える生活が支えられる人も支える人にも重くのしかかりました。

そんな厳しい感染対策の中でもサポーター役の方々の取り組みは、今回参加された皆様にとってたくさんのヒントと可能性が詰まっていたと思います。

認知症の診断を受けた方が家族に支えられて生活をしていたり、グループホームなどで支援や介護を受けながら生活をしている方がおられ、どちらの当事者もコロナであっても自分らしい生活を送ることができていると思います。そんな中に認知症のご本人もコロナの意味が分からなくとも、マスクや消毒、人と会話できなくて、大切な家族とも会えない日々が続くことで、家族や支援者と同じように生きづらさを感じられたと思います。

認知症のご本人が不安を抱えて生活をしていても、家族の人や支援者、介護者そして地域の人たちがコロナを忘れさせるような変わらぬ笑顔と温かい見守りがあれば、安心して毎日の生活を送れることを改めて今回の研修会で学ぶことができました。

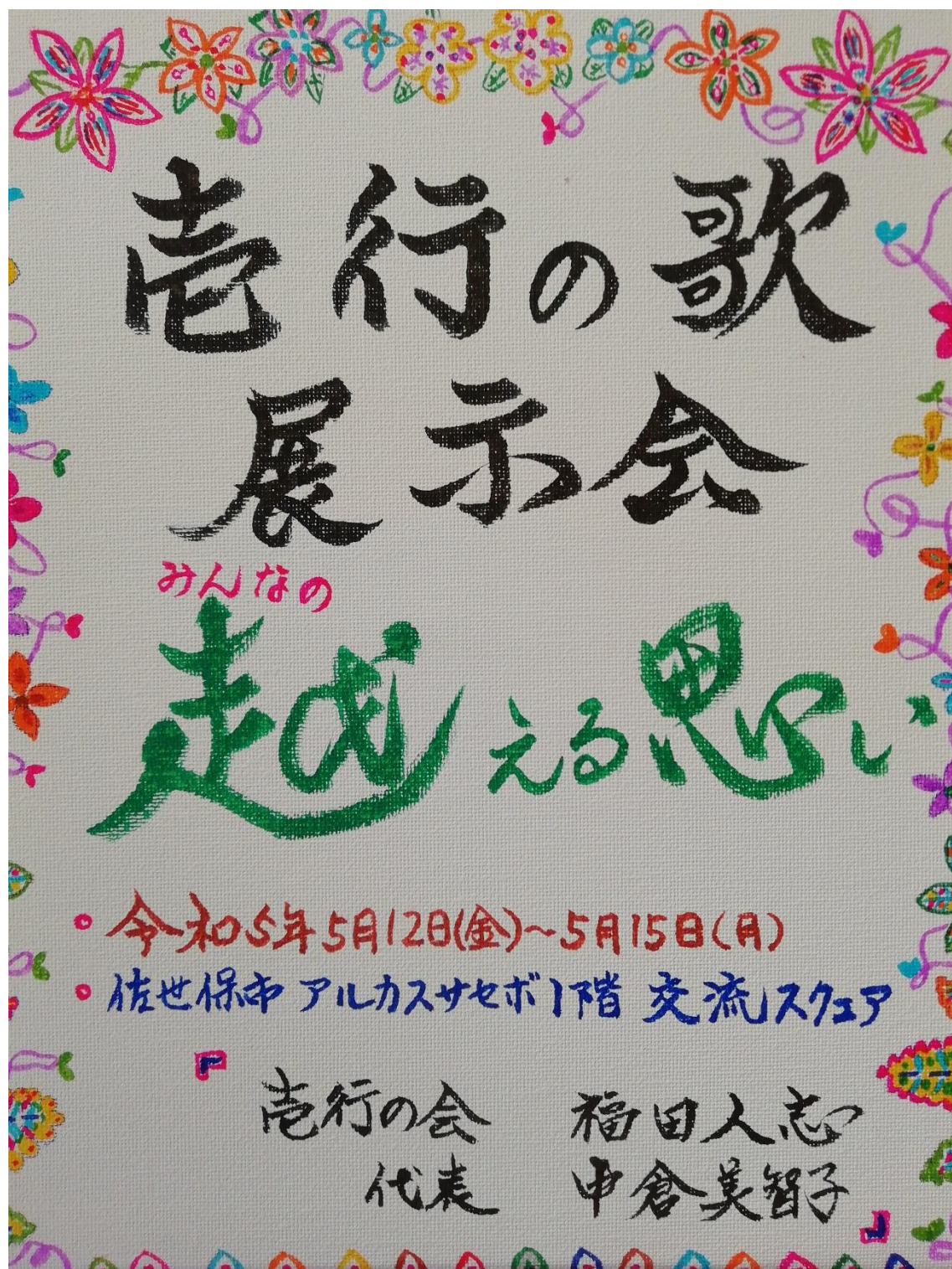
認知症のご本人の思いや、願いなど声を聴くことから始め、家庭やホーム内での楽しさの形に繋がっていくことも見えてきましたが、家族やホームのスタッフからのアイデアや小さなイベントなどへのアプローチがあることで、一緒に考えて成功させる喜びに繋がることも今回のグループワークで共有することができました。

地域との繋がりを持てるようになるためには、地域の人達と一緒に話し合いを重ねて理解してもらえることが大切であることも再認識できました。

認知症のご本人視点から考えますと、安心と信頼関係である家族や、ホームのスタッフの人達と同じように、楽しさや刺激をくれる馴染みの人が増えることが、地域支援という形に広がっていくことと思っています。

大げさでない小さな刺激を探しに一步踏み出せば、嬉しい結果が待っていると思いますので、皆で一緒に頑張って参りたいと思います。

福田さんより「壺行の歌 展示会」のお知らせです。



コロナ禍の中での生活や現在の暮らしの中で、認知症のご本人の声や思いをぬり絵に色と思いを表現した作品展です。

サポーターや家族の思いも一緒に展示されております。

萩田 哲司さん

地域支援アドバイザーを通して、また新しい仲間と出会えたことは本当にうれしいことです。認知症の方が日々どのように生き生きと過ごして頂けるか、皆さんの真剣な取り組みを共有することが出来ました。

私は、コロナ禍でも地域の小学生とのオンラインや、ソーシャルディスタンスを取れる状況を活用するなら、子どもたちと高齢者のふれあいの時間が持てることをまとめたスライドを発表させてもらいました。皆さんの発表もとても参考になる物ばかりでした。

コロナ禍出会っても、日々の暮らしの中で普通に行っている食事作り掃除などを少しアレンジするだけで、認知症の方の居場所作りやアクティビティーにつながることを再認識しました。今後も出来ない事に目を向けるのではなく出来る事に目を向けたいですね。暮らしの中の小さなひとこまがとても価値のある時間になりますように。

2. 参加者レビュー



2022 年度地域支援アドバイザー研修4回目レビュー

令和 5 年3月10日(金)14:00～16:00

回答数:8

① 令和5年度、取り組みたい活動は何ですか？□に✓を入れて下さい(複数可)

- ☐ 見守り・声かけ模擬訓練や地域の行方不明者の搜索活動への協力・・・2
- ☐ 入居者・利用者を通して地域とつながる取り組み・・・3
- ☐ 認知症の啓発・相談窓口の実施・・・2
- ☐ 認知症カフェ、つつみカフェのようなサロンなど・・・4
- ☐ 当事者交流会や当事者が気軽に参加できるつどい・・・1
- ☐ 「ツクタベ」や「さろ～んちくし野」のような取り組み・・・1
- ☐ 認知症予防教室・・・1
- ☐ 地域の行方不明者の搜索活動への協力・・・2
- ☐ オンラインでの地域交流の取り組み・・・0
- ☐ その他(・家族支援)

② 本研修全体を通して、一番印象に残ったこと、ためになったことは何ですか？

・グループワークの中で、行政の方の意見を聞いたりしたのは初めてだったので、それぞれの立場、角度から考える介護支援について、もっと話を聞きたいと思った

・グループトークでの、それぞれが取り組んでいることややりたいこと、考え方の共有ができたことは、考えることのきっかけ(とっかかり)になりました。

・コロナ禍で出来なくなったことが多くなるなかでも、地域とのつながりを作る取り組みをされている努力がとても重要なことであると感じました

・コロナ禍により色々と地域との活動が制限されてしまった中で、そこで終わりではなく、コロナと共存し出来ることがある事。サポーターの方々が取り組まれている内容を聞いて、とても参考になりました。難しく考えなくていい、小さいことから出来ることを始めていく、まずは一歩踏み出す気持ち・勇気が必要だということ

・災害にあった施設で、助けてもらうには近所の方も必要で、その為には日頃から地域の人達とのつながりを持つことが大切だと改めて気づかされることがありました。

また、コロナ禍でも地域とのかかわり方の工夫をされている話を聞くことが出来て良かったです。

・様々な職場の方からの情報共有ができ、実際の取り組みなど学ぶことが多かった。

・被災した施設の方の話は、特に印象に残っています。地域の方との関わりの大切さを学びました。

・コロナ感染拡大により、地域のサロンや事業所内の活動が休止したが、その中でも人が繋がる活動をどうしたら続けていけるかを考え行動されていた。これまで当たり前と感じていた活動でなくても、何か一つのことを一緒に行うことだけでも人と繋がる機会になり、外に出ることで地域の方からも寄ってきてくれることもある。まずは自分たちが楽しいと感じる活動を行っていくことで、何か見えてくると思います。

また、災害時の支援として災害当日から活動を開始し、災害時にも自立支援を考えて行動されていたことに驚きを感じました。コロナも災害も非日常的な状況になることで、自立支援が阻害され ADL 低下が進んでしまうことを実感しました。

研修レビュー: 本研修を通して学んだことや、グループホーム・小規模多機能施設の地域支援活動の意義や可能性など、自由に記載してください。

・コロナ禍で、本来もっと活動的だった、地域との交流、地域支援活動、事業所内での入居者同士の交流(家族との交流)が縮小されたのは(仕方がないが)とても残念なことではあるが、研修を通して、色々なアイデア、工夫をされているのを聞き、自分たちも何ができるか考えるきっかけができ、とても参考になった。

これから少しずつコロナの規制も緩和されることになって、また少しずつ交流範囲を広げ、入居者の心身の健康を維持していきたい。

・介護を受けることや、認知症など、知ってもらうため、理解してもらうためにも、地域支援活動が必要なんだな、と思いました。

他人事ではない現実が、当たり前前に社会に受け入れられ根付くには、どんどん地域に入っていくことが大事だと思いました。

・災害が起きた時など、地域のつながりがとても大切で、日頃の地域の方との交流とまではいなくても、あいさつなど、大切にしていきたいと思いました。

・コロナ禍でも地域支援として出来ることがあること(やり方も様々である)

地域密着型としてこちらから行動を起こす。地域共存を目指しながら、認知症でも、認知症でない人も、年齢問わず、顔見知りの関係になれること、それが普通の光景になることが理想。

・入居者の生活をより豊かなものにするためにも、地域住民との交流につなげ、地域行事に積極的に参加し、施設の行事に地域の方に参加して頂くように働きかけをしなければならないと思いました。

・認知症や障害のある方などもコロナや災害時も関係なく生活しており、心身ともにケアを個別化する必要性を改めて実感できた

・研修後に地域の方とお話をする、認知症の人にどうやって接したらいいかわからない場合があると言われました。また施設といってもいろいろあって、どこに相談に行けばいいのかわからないという方もいたので、施設はどんなことをしているのかをもっと地域の方に知ってもらう必要があると思いました。お互いにお手伝いしあえる関係をつくっていききたいです。

③最後に、

1) 今回の研修内容は

- ☐ とても役に立った・・・4
- ☐ 役に立った・・・3
- ☐ まあまあ役に立った
- ☐ あまり役に立たなかった
- ☐ 役に立たなかった

2) このような研修は今後

- ☐ とても必要だと思う・・・3
- ☐ 必要だと思う・・・4
- ☐ あまり必要と思わない
- ☐ 必要ない

どのような内容についてそう思われますか？また、今回なかった内容で、あった方がいいと思うことがあればご記入ください。

- ・全般的に、どの講義も興味深く、とても勉強になった。
- ・災害やコロナ(感染症)など、実体験の共有は、想定しておく上でも、とても大切だと思いました。
- ・実体験に基づく出来事や取り組みを知ることで、自分達にもできる何かヒントを得ることが出来ると思いました。
- ・他事業所や行政と意見や情報の交換等をする場がないので、多職種連携みたいな形で行うと、新たな情報、学びがあり、それを基に参考にしながら、自分たちのやり方で目標を目指せるのでよかったと思う。
- ・コロナ禍でも地域とのつながりの大切さを実感しました
- ・4回シリーズすべてには参加できないが、包括の場合は研修内容に合わせて参加できるので助かります。
- ・地域とのかかわりをどうしていいのかわからなかったのも、今回の研修に参加しました。同じような方がいたら、とても勉強になるので、このような研修は必要と思います。
- ・グループホームや小規模施設が地域と繋がることで、地域の活性化につながると感じた。災害時の対応に、地域と近いグループホームや小規模施設との連携がもっとスムーズに行えるように、顔の見える関係性づくりを行っていかれたらと感じた。